

『羊と鋼の森』 文藝春秋

宮下奈都／著

高校生の時、体育館で偶然出会ったピアノの調律に魅せられた外村。迷いなく調律師の専門学校へ進学し、卒業。地元の小さな楽器店に就職し、調律師としての道を歩み始める。才能がないと悩みながらも、先輩の言葉やピアノを習う双子の姉妹の存在に助けられ、コツコツと丁寧に自分の「音」を探していく。



周りの人たちに支えられながら、仕事や好きなことにひたむきに向き合い、成長していく日々が穏やかに淡々と描かれている。今を一生懸命生きる、全ての人の背中をそっと押してくれるような一冊である。